

御崎地区 歴史文化の視点1

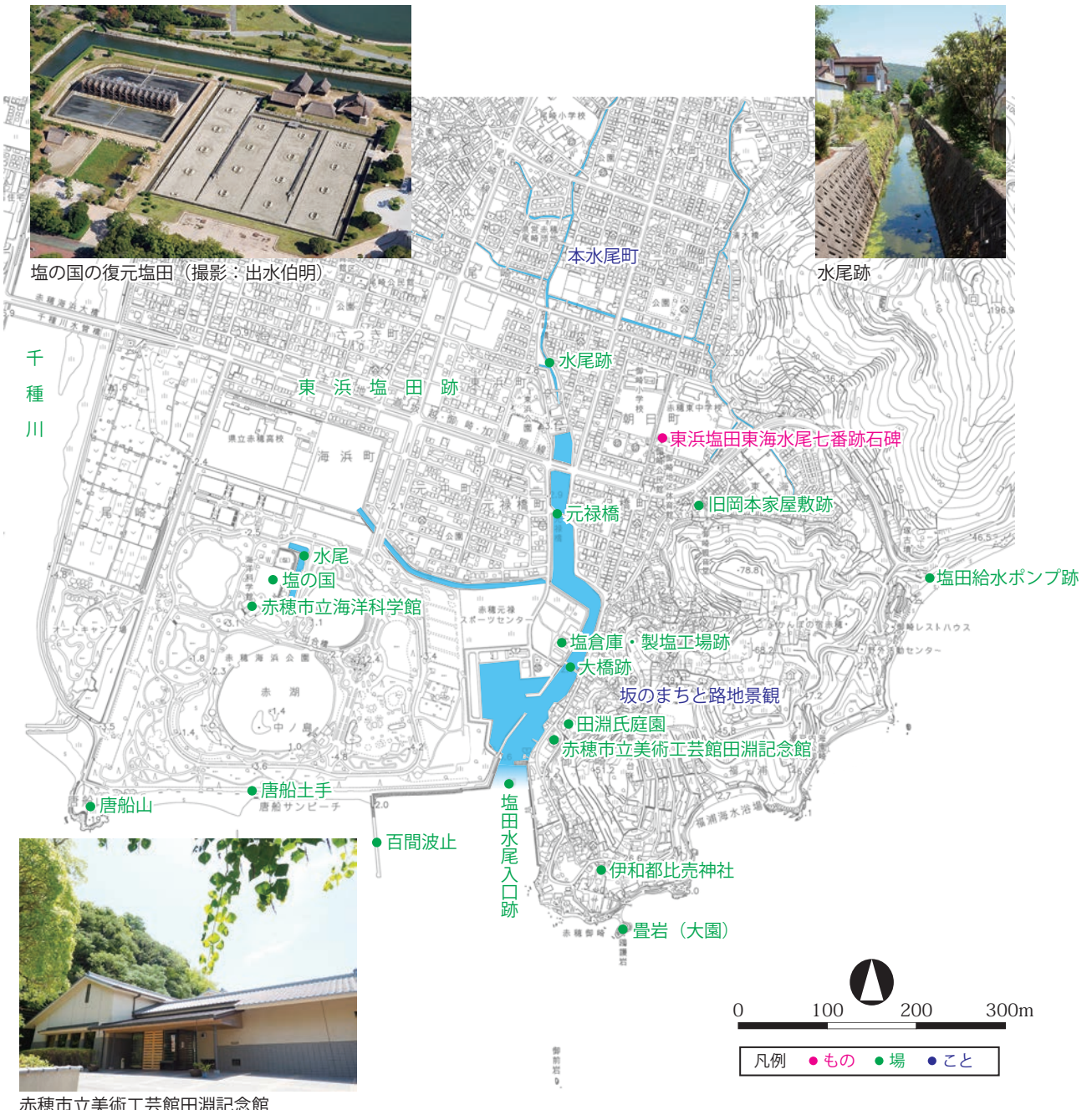
11. 塩業の歴史を今に伝えるー東浜塩田ー

【ストーリー】

全国に名をはせた赤穂の塩。赤穂城の東西に整備された東浜・西浜塩田の面積は、最終的に約420haを誇った。御崎は江戸時代前期に新浜村として開発され、東浜塩田の一大生産地となった。

塩田の廃止後は住宅地や県立公園になったが、製塩資材の運搬に利用された水路「水尾（みお）」や取水口周辺の堤防、そして平地を塩田とするため山の斜面に築かれたまちなみや、細い路地が当時の面影を残している。

また江戸時代後期、日本最大の塩田地主であった田淵邸の書院と庭園は国指定の名勝「田淵氏庭園」となり、隣接して赤穂市立美術工芸館田淵記念館が整備されている。さらに兵庫県立赤穂海浜公園内には赤穂市立海洋科学館および「塩の国」が整備され、復元された製塩施設において現在も塩の生産が行われており、体験学習などに広く利用されている。



赤穂市立美術工芸館田淵記念館